

事業所名 グループホーム そよかせ

日付 平成18年3月31日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年
評価調査員 在宅介護経験11年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

広いリビングは植木鉢が置いてあり、椿の花、お雛様の絵などみんなの共同作品が壁に並んでいる。2階で自由に外に出られないので、なるべく自然を取り入れた雰囲気を作っている。利用者の中で100歳の方が2名もいて生活している。職員の「歩くぞー、歩くぞーと言いつつながら歩きましょう」と声をかけられて、ゆっくりと歩いている。励ましながら機能の維持に努めている。

「さん、その帽子よう似合うわ」「鏡、ここに持ってきねえ」「昔はようこんな着よったわ」「あっちがよう似合うわ」等など2個の帽子で利用者は楽しそうに話している。

職員が「…しましよ」「…してもよろしいでしょうか」と声を掛けている。丁寧な言葉づかいが必ずしも良いとは限らないけれど言葉のやさしさに包み込まれる感じがした。

歯科医が以前より状態がよくなったと言われるほど、口腔ケアをしっかりとしている。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

「たより」を個人宛には状況を書いて送っているが、5グループホーム共同で充実した「たより」にして欲しい。

きっとホーム内の居心地がよいのですが、暖かくなって外に出るとまた気分が変わると思う。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	今まで暮っていた家の生活に少しでも近い生活を送れるよう支援していこうとしている。 利用者の話をよく聞いて受け入れ、どうして欲しいかどうしたいかを理解し、その人の能力を活かせるように支援するようにしている。個別ケアを行い、介護の見直しを綿密に行っている。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	外出の機会が少ないし、二階にあるホームで土、緑に接することがないので、植木鉢を沢山置いたり、浴室にもプランターを置いてきれいな花が咲いていた。入浴しながら花を見るのはどんな気分なのでしょう、花壇？ また作品にも椿の花や、お雛様の絵など季節感を感じてもらえるように作品が飾ってあり、職員の工夫、配慮が分る。 自室にトイレのある部屋は、排泄の自立している利用者が入っていて「ここはいいよ。みんなよくしてくれるの。」と感謝して快適暮らしの様子がよく分る。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	今までの家庭の暮らしをホームでの生活に取り入れながら、利用者はいつまでも楽しい生活が続けていけるように配慮している。男性利用者は一人ですが、食事の席の配置にも工夫しており、皆揃ったら男性の「いただきますの合図で皆も「いただきます」と続く。家長としての尊厳を保てるよう配慮している。また起床後新聞を読む習慣がある人はそれを続けてもらえるように気を配っている。 外出や散歩はあまり興味を示さない利用者も椅子に座って自分の出来ることは沢山しています。家事、レクリエーション以外にも暑中見舞いや年賀状を自筆で書いて家族に送るように支援している。家族からの返事もそれぞれ受け取って、自室の壁に見易いように貼ってある。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
	食後、テーブルを布巾で拭く行為、自分の前だけを立ち上がって拭く人もあるが、椅子に座ったままテーブルを拭いている人もいる。そうすると「申し訳ないけど、テーブルをふいてくださる？」と職員が布巾を渡して端から順番に拭くようお願いしている。高齢の人には「さんできるか？」と利用者が声をかけて心配しているが、ちゃんと拭けるとすかさず「ありがと」周りの利用者が口々に言葉をかけて感謝の意を伝えている。他の人を思いやる心は失われていない。残存能力の維持に努めている。 わらべ歌、数え歌など思い出しながら歌っている。そのうちおしゃべりに移って職員の上手な引き出しで、おくどさんでご飯を炊いていた話し、麦わらを編んでいた話など回想している。頭も中はフル回転しているのではないだろうか。		